

6月20日にエゾシカ・ヒグマ

ワーキングが開催されました。

科学委員会には、テーマに応じていくつかのワーキンググループがあります。今回からエゾシカの管理とヒグマの管理を話し合う会議が一つになり、エゾシカ・ヒグマワーキンググループとなりました。

注目!

### 知床半島エゾシカ管理計画の

### 第3期計画がスタートしました。

第1〜2期計画の10年でエゾシカの捕獲を進めた結果、一部の地域ではある程度までシカを減らすことができました。第3期は、いかに効率良く（資金的にも労力的にも）、今の低密度状態を維持していくかが課題です。

シカは、年20%の割合で増加すると言われています。また、捕獲の対象地域でこそ減りましたが、対象地域の外にはまだまだたくさんいると考えられます。そのため、捕獲の手を緩めれば周辺か



囲いワナの中に入ったシカ

一方で、対象地域に残っているシカは、人から追いつてられたり仲間がワナに

知床ではヒグマと人がどう向かい合っているか、考え方をまとめた管理計画を5年ごとに作っています。今年から始まった第2期計画では、標津町も計画に参加し、これまでのヒグマに対する管理に加えて、知床半島全体で国立公園の利用者や地域住民に求められる行動について考え、皆さんにお願いしていくことになりました。

注目!

### 知床半島ヒグマ管理計画に

### 標津町が参画しました。

かかったりという経験をしている個体が多く、警戒心が増し逃げ足も速くなっているため、徐々に捕りづらくなっています。会議では、地形や地域ごとの群れの傾向などを踏まえて、過去に実施した様々な捕獲手法にどのような改良を加えたらよいかを話し合われました。



左はウトロでの普及活動の写真です。国立公園内では、道路脇に現れたクマを見ようと車から降りる方を見ることがあります。また外国人旅行者も増えており、言葉だけで無く絵などを用いて、守ってほしいルールをわかりやすく伝える工夫が重要になっています。

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ  
知床データセンター

<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます!



## Q. 知床半島にヒグマは何頭いるの？

### A. 560 (±440) 頭 と推定されています。

今わかっている様々なデータ、例えば過去20数年分の捕獲頭数や、平均的なメスの初産年齢、出産間隔、一度に産む子の数などから統計的な計算を行った推定値です。±440とは「統計的には120頭〜1000頭の可能性があるが、560頭あたりが一番可能性が高い」といった意味です。つまり誤差幅がとても大きい推定です。今後、半島全域を対象地域とした各種調査を進め、その結果を反映しながら、推定値の信頼性を高めていく必要があります。

#### ■問合せ先■

環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639

北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階

TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575